



Samba インストールガイド v1.1

オープンソース・ソリューション・テクノロジー株式会社
2007/03/24 第2版

目次

1. Solaris10 用に提供する Samba パッケージ.....	3
1.2. Samba のみご利用の場合.....	3
1.3. Samba LDAP 連携の場合.....	3
2. パッケージのインストール.....	4
2.1 パッケージの新規インストール.....	4
2.1 パッケージのアップデートインストール.....	4
3. Samba の初期設定.....	4
4. Samba の起動スクリプト.....	5
5. コマンド、および各種ディレクトリの配置.....	5
6. 注意事項.....	6
7. Samba パッケージ修正・変更履歴.....	6
7.1 Samba 3.0.24-1.8 [2007/03/06].....	6
7.2 Samba 3.0.24-1.9 [2007/03/13].....	6
8. インストールガイド更新履歴.....	6

1. Solaris10 用に提供する Samba パッケージ

1.2. Samba のみご利用の場合

弊社より下記パッケージを提供いたします。

SPARC 版 Solaris10 用には、下記ファイル名の「i386」の部分が「sparc」となります。

- osstech-db-4.5.20-2.sol10-i386.pkg.bz2
- osstech-krb5-1.5.2-1.sol10-i386.pkg.bz2
- osstech-libiconv-1.10-2.sol10-i386.pkg.bz2
- osstech-openldap-2.3.32-1.sol10-i386.pkg.bz2
- osstech-samba-3.0.24-1.9.sol10-i386.pkg.bz2

本ドキュメントでは、以降、上記パッケージ群をまとめて説明する際に「samba 関連パッケージ」として説明します。

1.3. Samba LDAP 連携の場合

LDAP を利用する場合、上記 Samba パッケージに加えて、下記のパッケージもあわせて提供いたします。

SPARC 版 Solaris10 用には、下記ファイル名の「intel」の部分が「sparc」となります。

- osstech-smbldap-tools-sol10-intel-opt-20070213.gz
- osstech-perl-Authen-SASL-sol10-intel.gz
- osstech-perl-Convert-ASN1-sol10-intel.gz
- osstech-perl-Crypt-SmbHash-sol10-intel.gz
- osstech-perl-Digest-HMAC-sol10-intel.gz
- osstech-perl-Digest-SHA1-sol10-intel.gz
- osstech-perl-GSSAPI-sol10-intel.gz
- osstech-perl-IO-Socket-SSL-sol10-intel.gz
- osstech-perl-Jcode-sol10-intel.gz
- osstech-perl-Net-SSLeay-sol10-intel.gz
- osstech-perl-URI-sol10-intel.gz
- osstech-perl-Unicode-Map-sol10-intel.gz
- osstech-perl-Unicode-Map8-sol10-intel.gz
- osstech-perl-Unicode-MapUTF8-sol10-intel.gz
- osstech-perl-Unicode-String-sol10-intel.gz
- osstech-perl-XML-SAX-Base-sol10-intel.gz
- osstech-perl-ldap-sol10-intel.gz

本ドキュメントでは、以降、上記パッケージをまとめて説明する際に「smbldap-tools 関連パッケージ」として説明します。

2. パッケージのインストール

2.1 パッケージの新規インストール

上記で提供する samba パッケージ以外のパッケージの多くは/opt/osstech 配下にモジュールをインストールします。従って、パッケージインストール前に、/opt ディレクトリに 500MB 以上の空き容量があることを確認してください。

各パッケージのインストールは、pkgadd コマンドを用いて行います。各バイナリは bzip2、もしくは gzip により圧縮されていますので、bzip2 コマンド、もしくは gzip コマンドで解凍した後に、pkgadd コマンドでシステムにパッケージをインストールしてください。

[拡張子が .bz2 のパッケージ]

```
# bzip2 -d osstech-samba-3.0.24-1.9.sol10-i386.pkg.bz2
# /usr/sbin/pkgadd -d osstech-samba-3.0.24-1.9.sol10-i386.pkg
```

[拡張子が gz のパッケージ]

```
# gzip -d osstech-smbldap-tools-sol10-intel-opt-20070213.gz
# /usr/sbin/pkgadd -d osstech-smbldap-tools-sol10-intel-opt-20070213
```

各パッケージをインストールする順番は自由ですが、上記で記載されているパッケージは全てインストールしてください。

2.1 パッケージのアップデートインストール

既に OSSTECH 提供の samba 関連パッケージを利用している場合には、pkgrm コマンドで以前のパッケージを削除します。

システムにインストール済みの OSSTECH 提供の samba 関連パッケージ、および smbldap-tools 関連パッケージを確認するためには、次のコマンドを実行します。

[実行例]

```
# pkginfo -l | grep osstech | grep PKGINST
PKGINST: osstech-db
PKGINST: osstech-krb5
PKGINST: osstech-libiconv
PKGINST: osstech-openldap
PKGINST: osstech-samba
```

パッケージの削除は、pkgrm コマンドで行います。

```
# /usr/sbin/pkgrm osstech-samba
```

その後、新しいパッケージを pkgadd コマンドでインストールします。

```
# /usr/sbin/pkgadd -d osstech-samba-3.0.24-1.9.sol10-i386.pkg
```

3. Samba の初期設定

- samba の設定ファイルである smb.conf は、/etc/samba ディレクトリに作成してください。

- 既存の samba 環境をひきつぐ場合には、samba のキャッシュファイル(***.tdb)を/var/cache/samba ディレクトリにコピーしてください。
- samba のログファイルは、/var/log/samba に作成されます。
- winbind による Active Directory 連携時には、/opt/osstech/etc/krb5.conf に Kerberos 認証のための設定を行います。

4. Samba の起動スクリプト

/etc/init.d に samba、および winbind の起動スクリプトとして、/etc/init.d/smb、/etc/init.d/winbind を用意してあります。

smbd、nmbd を起動する場合は、

```
# /etc/init.d/smb start
```

を実行してください。

smbd、nmbd を停止する場合は、

```
# /etc/init.d/smb stop
```

を実行してください。

winbindd を起動する場合は、

```
# /etc/init.d/winbind start
```

を実行してください。

winbindd を停止する場合は、

```
# /etc/init.d/winbind stop
```

を実行してください。

[注意] /etc/init.d/samba は、Solaris10 標準の Samba パッケージが提供している起動スクリプトです。この起動スクリプトでは、OSSTECH 提供の Samba を起動することはできませんので注意してください。

5. コマンド、および各種ディレクトリの配置

- Samba の主要なコマンド類
 - /usr/bin/pdbedit : ユーザアカウント、マシンアカウントなどの管理用コマンド
 - /usr/bin/net : Samba およびリモート CIFS サーバの管理ツール
 - /usr/bin/nmblookup : NetBIOS 名の問い合わせなどのツール
 - /usr/bin/smbclient: SMB/CIFS サーバリソースにアクセスするクライアントツール
- Samba の各種デーモン類
 - /usr/sbin/smbd: ファイルサーバ、ドメインコントローラ、プリントサーバ機能などを提供するデーモン
 - /usr/sbin/nmbd: NetBIOS サービスを提供するデーモン
 - /usr/sbin/winbindd : Active Directory 連携機能などのサービスを提供するデーモン
- Samba の VFS モジュール
 - /usr/lib/samba/vfs ディレクトリ
- Samba の設定ファイル
 - /etc/samba/smb.conf
- Samba のキャッシュファイル

- /var/cache/samba
- Samba のログファイル
 - /var/log/samba
- Active Directory 連携時の Kerberos の設定ファイル
 - /opt/osstech/etc/krb5.conf

6. 注意事項

弊社提供パッケージのアップデートに伴い、将来的に smbldap-tools のコンポーネントのインストール先が変更される可能性があります。インストール先が変更された場合には、パッケージリリース時に合わせてお知らせいたします。

7. Samba パッケージ修正・変更履歴

7.1 Samba 3.0.24-1.8 [2007/03/06]

- 起動スクリプトが/etc/init.d/smb、および/etc/init.d/winbind に変更されました。
- Samba パッケージの提供する各コンポーネントの配置が、/opt/osstech から/usr/bin、/usr/sbin などに変更されました。各コンポーネントの配置の詳細は、「5.コマンドおよび各種ディレクトリの配置」を参照してください。
- Samba の idmap バックエンドの idmap_ad モジュールの不具合により、winbindd が異常終了する問題を修正しました。
- Active Directory 連携で winbindd 利用時に、SID の変換が失敗した場合に、winbindd が異常終了する問題を修正しました。
- Solaris 上でのメモリアロケーションに関する問題を修正しました。
- winbindd のメモリリークの問題を修正しました。
- LDAP にアクセスする際に、適切な権限が設定されていない問題を修正しました。

7.2 Samba 3.0.24-1.9 [2007/03/13]

- Solaris10 用 64bit 版 nss_winbind.so、および pam_winbind.so を samba パッケージに統合しました。
- wbinform コマンドの-group-info オプションを samba 3.0.25pre1 よりバックポートし、利用可能にしました。
- Windows Vista 対応パッチの一部を更新しました。

8. インストールガイド更新履歴

2007/02/23 初版 : Samba インストールガイド v1.0

2007/03/24 第2版 : Samba インストールガイド v1.1

- Samba 関連パッケージの命名規則が「osstech-[ソフトウェア]名-[バージョン番号].sol10-[アーキテクチャ].pkg.bz2」に変更されました。

- `osstech-openssl` の代わりに Solaris10 付属の OpenSSL を利用するよう変更しました。そのため `osstech-openssl` パッケージは不要となりました。
- `osstech-sasl` の代わりに Solaris10 付属の SASL を利用するよう変更しました。そのため `osstech-sasl` パッケージは不要となりました。
- Samba 関連の各パッケージの圧縮方式が `bzip2` に変更となりました。